

めぐみイエス・キリスト教会

2020年5月3日(日)第一主日礼拝
週報「通算第505号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(各家庭にて)	毎週日曜日	午前10時~11時
第二礼拝※中止	毎週日曜日	午後6時~7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分~7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年5月3日 第一主日礼拝 午前10時

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌395「主はガリラヤ湖の」	p. 634
【交読文】	No.55 ヨハネの福音書15章	p. 923
【賛美Ⅱ】	新聖歌325「歌いつつ歩まん」	p. 515
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル賛美「父なる神の愛」	
【聖書朗読】	使徒の働き1章8節(新約p. 208下段)	
【聖書研究】	《私の証人とは?》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所 使徒の働き1章8節

1:8 「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、私の証人となります。」

◎聖書研究と分かち合い

①聖霊とはどんなお方ですか？

『「私は父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと共におられる為にです。その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れるこ

とができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたと共に住み、あなたがたのうちにおられるからです。」』(ヨハネの福音書14:16～17)

『「しかし、助け主、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、私があなたがたに話したすべてのことを思い起こさせて下さいます。」』(ヨハネの福音書14:26)

②「あなたがたは力を受けます」と言われた「力」とは？

『イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊どもを制する権威をお授けになった。霊どもを追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいを直す為であった。

「行って、『天の御国が近づいた。』と宣べ伝えなさい。病人を直し、死人を生き返らせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出さなさい。あなたがたは、ただで受けたのだから、ただで与えなさい。」』

(マタイの福音書10:1・10:7～8)

③「私の証人」とは、何をあかしするのですか？

『「私が父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来る時、その御霊が私についてあかしします。あなたがたもあかしするのです。初めから私と一緒にいたからです。」』(ヨハネの福音書15:26～27)

『さて、そこでイエスは言われた。

「私がまだあなたがたと一緒にいたころ、あなたがたに話した言葉はこうです。私についてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」

そこで、イエスは、聖書を悟らせる為に彼らの心を開いて、こう言われた。

「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。あなたがたは、これらのことの証人です。」 (ルカの福音書24:44～48)

◎先週のメッセージの概要【ガリラヤにおいて】

《主イエス様は、よみがえられてから八日目、弟子たちが集まっていた所に再び現われて下さいました。その時、トマスはいたのです。ようやく弟子たちは、主の最初の命令に従って、ガリラヤに向かいます。ガリラヤ伝道の拠点となったカペナウムの、シモン・ペテロの家を目指しました。

三日後に辿り着き、数日間、主の訪れを待っていたのですが、ついには食べ物がなくなっていました。そこで、ペテロが、「私は漁に行く」と言い、数名の弟子と共に舟に乗り込んだのです。しかしその夜は、何も捕れませんでした。そこへ、湖の岸辺に主イエス様が通りかかります。

「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」

「はい。ありません。」

「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、捕れます。」

何と大きな魚が153匹もかかったのです。かつてこれと同じ様な事を、ペテロとアンデレ、ゼベダイの子ヤコブとヨハネは体験していたのです。その時もペテロたちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。

「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚を捕りなさい。」

「先生。お言葉どおり、網をおろしてみましよう。」

すると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになったのです。この二つの出来事から、主イエス様は彼らに何を教えようとされたのでしょうか。それは、主の働きをする者は、決して飢えることがないということです。

ペテロが浜辺に泳ぎ着き、弟子たちが舟を岸に着けると、何とそこには「朝の食事」が、用意されていました。これこそが、主を信じる者、主の為に働く者には、主ご自身が食事を整えて下さると言う約束なのです。

『「そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」』》

◎お知らせ

※主日礼拝は、5月10日(日)・5月17日(日)は、各家庭にて行ないます。また聖書の学びと祈り会も、5月6日(水)・13日(水)・20日(水)は、各家庭にて行ないます。その後は新型コロナ・ウィルス自粛の状況しだいです。